

旧池尻中学校跡地活用の今後の進め方等について

1 主旨

旧池尻中学校跡地活用の今後の進め方等を変更したので報告する。

2 これまでの経過（区民生活常任委員会報告）

令和元年11月11日「世田谷ものづくり学校事業の検証と今後の方向性について」

令和2年 7月30日「新たな世田谷ものづくり学校（旧池尻中学校跡地）における今後の事業展開について」

令和2年11月10日「世田谷ものづくり学校の実績等について」

令和3年 2月 8日「旧池尻中学校跡地活用の新たな基本コンセプトについて」

令和3年 9月 1日「旧池尻中学校跡地活用に係るサウンディング型市場調査の結果及び今後の方向性について」、「世田谷ものづくり学校の事業運営における評価・検証等について」

3 今後の進め方について

令和3年9月1日「旧池尻中学校跡地活用に係るサウンディング型市場調査の結果及び今後の方向性について」において、11月に事業者公募の要件を報告するとしたが、以下の2点について再検討し、令和3年度中に報告する。

（1）旧池尻中学校施設の活用方法について

政策経営部とともに旧池尻中学校の土地と建物の有効かつ効果的な活用手法について検討する。

（2）産業活性化拠点のあり方について

令和3年2月の基本コンセプト（別紙）において、新たな世田谷区の産業・学びの拠点となり区内経済循環の活性化を実現する場として、旧池尻中学校を位置付け、事業者公募に向けサウンディング調査などを実施してきた。

一方、上記（1）での検討が始まることに加え、基本コンセプト時から、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化による区内産業を取り巻く環境のさらなる変化もあり、再度、世田谷の産業活性化を実現する場について調査・分析が必要である。

それら調査等に加え、有識者、区内産業界との意見交換なども実施しながら再検討を行う。

コロナ禍により社会が大きく変化していく中で、社会課題を創造性とテクノロジーを用いて解決する起業家を育成するとともに、未来の産業を担う人づくりに向けた取組みを実施し、多様な人材が交流連携するプラットフォームによる『コレクティブインパクト』を実現していく。

【校舎・体育館・校庭を一体性をもって区民に開かれた空間へ】
(活用の可能性)

- ・オンライン/オフライン両面での場の活用
- ・多世代が交流できるコミュニティ機能
- ・農業やものづくり体験ができる場
- ・新たな技術創出発表の場の支援

地域特性を活かした賑わいをつなぐ場

【創造性・テクノロジー×社会課題解決スタートアップ企業・人材を育成】
(活用の可能性)

- ・SDGs/サーキュラーエコノミー、DX推進などに係る先駆的な起業家の育成拠点およびショールーム機能
- ・起業/創業の総合的な支援体制
- ・区内事業者との連携による新規事業創出
- ・大学との連携によるLABO機能

多様な企業人材が新たな価値を創造する場

【フリーランス・会社員・子育て中の多様な働き方を促し 創業気運向上】
(活用の可能性)

- ・仕事×コミュニティ×学びを実現するサードプレイス
- ・クラウドソーシングやワークシェアへの支援
- ・プロボノの活動、複業の促進拠点
- ・異業種との連携による創業へのステップアップ

職住近接のため多様な働き方の支援拠点

未来を担う子どもへの新たな学びを実践する場

【これからの未来を担う子どもに向けた多様な学びの場】
(活用の可能性)

- ・オンライン学習およびSTEAM学習(AIやロボット等)の促進拠点
- ・一人ひとりの子どもが気軽に訪れ、“リアル”と“オンライン”の融合でのつながり、多様な学びを様々な人材・企業とも交流しながら深め、将来の仕事にもつながる創造力を育む場の構築

新たな世田谷区の産業・学びの拠点となり区内経済循環の活性化を実現していく